

SDGsの手法を用いた 鳥川流域森林組合 持続的な成長のための戦略を策定

SDGs（持続的な開発目標）は、国連で採択された2030年を期限として目指す、国際的な目標です。

森林組合では、2030年に向けての目標を立て、目標達成のために取り組むべき事業を明確にし、さらには、それらがSDGsのどの目標に貢献できるのかを取りまとめ、戦略として打ち出しました。

2030年の鳥川流域森林組合の あるべき姿（目標）と取組項目、SDGsへの貢献

目標 1 森林の恵みに感謝し、地球環境保全のため、豊かな森林を未来に引き継ぐ森林組合となる

取組

- ・森林資源の循環サイクルを途絶えさせない事業展開
- ・森林の公益的機能が高度に発揮できる森林整備の推進など

SDGs



目標 2 健全な森林を育成し、林業と山村地域の活性化に貢献できる森林組合となる

取組

- ・施業集約化の推進、搬出間伐・主伐の推進による利益の還元
- ・高性能林業機械の積極的な導入、高密度路網による低コスト林業の推進など

SDGs



目標 3 木材産業を通じて、川上から川下まで、積極的な連携で相乗効果を発揮する森林組合となる

取組

- ・連携による森林組合系統としての強い基盤づくり
- ・地域の異業種との連携による林業振興、木材活用の推進など

SDGs



目標 4 自主・自立、民主的運営を基本に、地域に信頼される森林組合となる

取組

- ・積極的な情報発信、森林組合の認知度の向上
- ・サービス向上による、組合員であることの「お得感」づくりなど

SDGs



目標 5 環境を守り、資源を育てる誇りある仕事を通じて、生きがいが得られる森林組合となる

取組

- ・労働安全衛生の確保、キャリアアップのための諸制度の充実
- ・職員の待遇改善、福利厚生制度の充実 など

SDGs

